

2012年8月よりカリフォルニア大学バークレー校工学部 Applied Science and Technology の PhD 過程に所属しています、森です。ふと気づくと渡米してから3年弱が経過していました。また色々と駄文ですが報告をいたします。

1. 研究について

研究室やら何やらを変更してから丸々一年経過しました。ようやく出た些細な実験結果を解析している最中です。一言「解析」といえば簡単ですが、これが中々厄介です。僕が実験結果を初めて教授に見せると、教授は軽々しく「full analysis をやれ」と言ってきます。「っておい！ full analysis ってなんやねん！」と心の中の（エセ）関西人が猛々しくツッコミ声をあげます。心の中でだけでは益荒男な僕ですが、表向きは借りてきた猫のように非常に大人しいので、ここでいう「full analysis とは何なのか」というツッコミ（というか質問）をいれられずに、軽く（本当に軽く）探りをいれる程度で、できるだけ爽やかに親指を突き立てて「Sure!」と返事をします（こういうところだけ所謂アメリカナイズされていますね）。なんなら「ええ大体全てわかってますよ、僕？」みたいな雰囲気すら醸し出していました。さて、僕の研究室では、人によって扱う物質や物理が違えば、その中の興味ある現象の種類も違います。そういう中で、周囲に「結局ヤツ（教授）がいう full analysis ってなんなんスカね？」と質問しても、多種多様な答えや推測が返ってきます。特に僕のメインでやっているプロジェクトは研究室の伝統的なメインストリームから離れているので、「これだ!」という方法論はありません。とりあえず探り探り進める中で、教授と話しながら次にやる事を決めていきます。しかし、超多忙な教授陣にはありがちな事で（仕方ない事ですが）、ヤツらは一々チマチマと雑魚キャラ（ていうか僕）と話し合った事について記憶してない事が多く、毎回意見が変わる事もあります。そういう中で如何に教授のいう無理難題や理不尽さに自分をフィットさせていくのが重要なようです。なんだか結局どの世界にいてもそういうことなのかな、生き辛いな、と感じます。教授の投げってくる理不尽極まりない指示や説教を受け止め、時には誤魔化したり、乗り越えたり、ミスコミュニケーションがあったり、自尊心（と魂的なもの）をゴリゴリ削りながら進めていく感じです。渡米前に読んだ、誰かの PhD 体験記的な記事に「PhD 課程は長い。5年以上もあれば、程度は様々だが指導教官と衝突は避けられない」みたいな事が書いてあったのを思い出します。できれば長いものには素直に巻かれていた

い僕は当時「んなアホな」と思っていました、完全に僕がアホでした。ある、それ、全然ある、っていうか、あってる（進行形）。おそらくそういう中で自分の仕事のクオリティを上げていき、きちんと記憶に残るような事をしつつ、信頼されるようになりながら研究能力というものを研磨していくのでしょうか。っていうか、全体的にこういう事書いちゃってるのバレたらアレですね、怒られちゃいますかね。日本語だし大丈夫でしょ、とタカをくくっておこうかと思えます。

研究室とは直接の関係が無い研究者が、装置を使わせて欲しい、という事があります。キリストの生まれ変わり？と言われるくらいとびきりの優しさを持ち合わせた僕です、助けないわけにはいきません。僕レベルになると反射的に人助けをしてしまいます。しかし、軽く助け始めた事をきっかけにどんどん相手が増長してくることがありました。結果的にはなぜか僕のプロジェクトのようになり、時間や体力を削られる羽目になったわけです。まるで呼吸をするかのごとく自然に人助けをする僕も、あれ、これ、オレ、超搾取されてね？と思い始めました。これが弱肉強食、これが資本主義、食うか食われるか！ライアーゲーム！全員！悪人！と、まあ、しょうもない例えや（間違った）感想がたくさん出てきますが、とにかくきちんと自分の中での優先順位などをはっきりさせてそれを示しながらやらなければダメなんだな、という当たり前のことを学びました。とりあえず筋トレでもして自信をつけて、堂々と振舞っていきたいところです。関係ないですかね、すいません。

2. 英語について

英語能力ですが、特に変化はありません。教授から「お前の英語はわからないし、クビね」という内容のメールが届き、「え、そんなカジュアルにクビに？」と戸惑う夢に魘された事もあります。と言いながらも、もしかしたら客観的にみたら少しはできるようになっているのかもしれませんが（希望）。とりあえずまあ生きてはいけるなっていう感じです。一向に上達しねえな、と思いながらも別に英語だけに対して真摯に向き合って勉強してるわけでもない、当然の結果かもしれませんが、TOEFL（という守銭奴の塊みたいな試験）の点数を取るために単語を覚え、文章を読み、iPodからひたすら流れるDU03.0を倍速で聴き覚え、音読を繰り返し、問題を解いていたストイックだった僕はもうどこにもいません。っていうか、その努力の思い出すら、今の僕の脳みそが作り出した

幻想で、実際今とあまり変わらないダメオだったんじゃないか…？っていうか盛り癖のある僕です、まず間違いなく最低でも 1.5 倍には盛ってるでしょ、過去の自分を！と、自問自答してしまいますが、仮に盛っていたとしても、とにかく以前の様な“英語の勉強”というものをしなくなったのは確かです。とりあえず何もしないよりはマシか、という事でたまに英語をただ聞き流すという事をしますが、これ、びっくりするほど効果ない気がしています。いや、っていうか大体にして聞き流すだけで英語できるようになるかよ！おまえは赤子か！とセルフツッコミいれざるを得ません。どこかでガッツリと英語の上達のみ集中できる日が今後人生でくる気もしないので、この調子でちょくちょく足掻きながら上達していくことを祈るのみです。

どうでもいいですが、未だにネット上で「Why not retake the TOEFL test?」みたいな TOEFL のバナー広告が出てきては、試験の度に虚ろな目で「アイリブイントーキョー」とマイクに向かって繰り返し語りかけていた辛かった思い出などがフラッシュバックしてきます。一々こういう小さいことに怯えて生きていると精神衛生上良くないので、筋トレでもして精神の安定を保っていきたいです。

3. 最後に（雑感）

最近流行ってるのでしょうか、過去の自分の劣悪さを一々引き合いに出し、そこから現在の自分に至るまでのサクセスストーリーのようなもの、が個人的にあまり好きではありません。彼らはまるで誰でもできる、人は変われる、努力の尊さ、など身の毛もよだつ事を真顔で宣います。そっちの方がウケはいいのでしょうか、なんだかなあっといった感じです。と、この件について語り始めたら長くなるのでここらへんでやめておこうと思います（じゃあそもそもでかくなって話ですが）。

全体的にまたしてもドンヨリした報告書ができあがりました。次こそビシッとポジティブなことが書けるように、日々筋トレに励んでいこうと思います。（すいません嘘です研究に励みます。）